



2024年2月18日

船橋在宅医療ひまわりネットワーク第2回実践発表会

脳血管疾患患者の 在宅復帰を支える人材育成について ～全国の回復期リハ病棟と当院の比較～

加辺 憲人(理学療法士)、
石原健(医師)、角田 公啓(看護師)、梅原 啓子(看護師)、
高本 真紀子(介護福祉士)、前田 尚賜(作業療法士)、
橋本 美奈子(言語聴覚士)、野口 陽介(社会福祉士)、
高野 麻美(言語聴覚士)、加納 知明(事務)

医療法人社団 輝生会 船橋市立リハビリテーション病院

【本報告の目的】

1. 在宅復帰に関連する過去10年分の実績について全国と当院の実績を比較をすること
2. 在宅復帰を支える人材育成・環境を整理する



○市立病院として船橋市民の在宅復帰を支援する役割を果たしているのかを確認すること。

【方法】

○回復期リハビリテーション病棟の創設目的

1. 在宅復帰
2. 日常生活動作の向上
3. 寝たきりの防止

日常生活を送るために
最低限必要な日常的な動作
「起居動作・移乗・移動・食事・
更衣・排泄・入浴・整容」

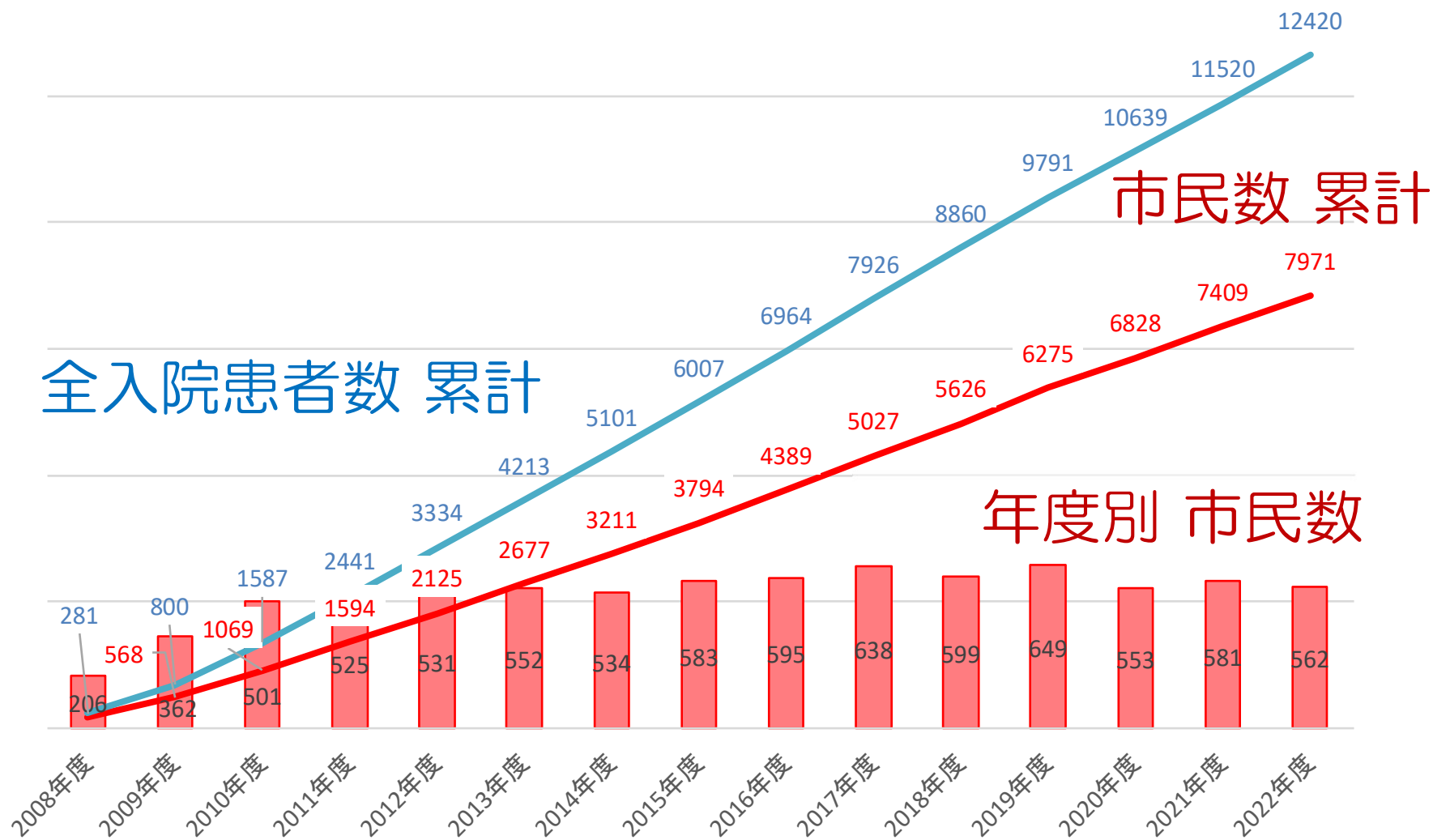


全国との比較項目 ※全国平均は回復期リハビリテーション病棟協会より

1. 在宅復帰率と在院日数※全国比較
2. 日常生活動作の改善（退院時-入院時）
○Functional Independence Measure（以下、FIM）※全国比較
3. 歩行能力の改善（退院時と入院時の比較）
○FIM歩行項目

【対象】

○船橋市民を毎年500人、市民累計約8,000人
全患者累計約12,000人対して入院医療を提供した

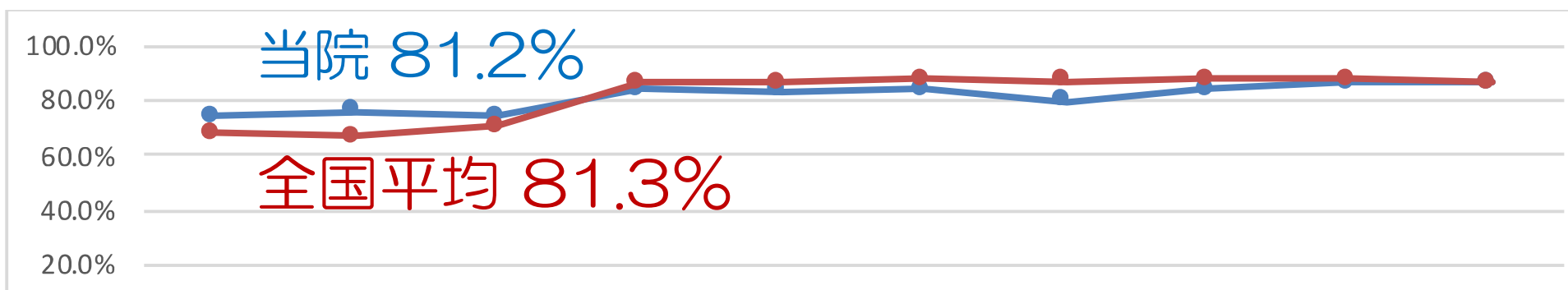


【結果1：在宅復帰率と在院日数の比較】

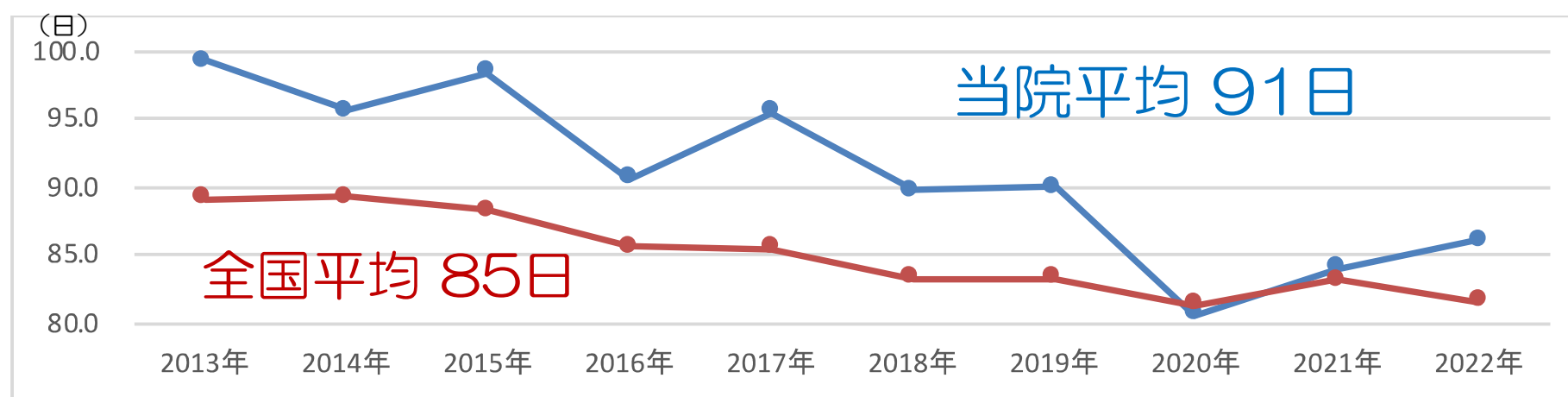
○在宅復帰率は全国平均と同等で8割

○在院日数は全国平均と比較するとやや長<90日弱

在宅復帰率

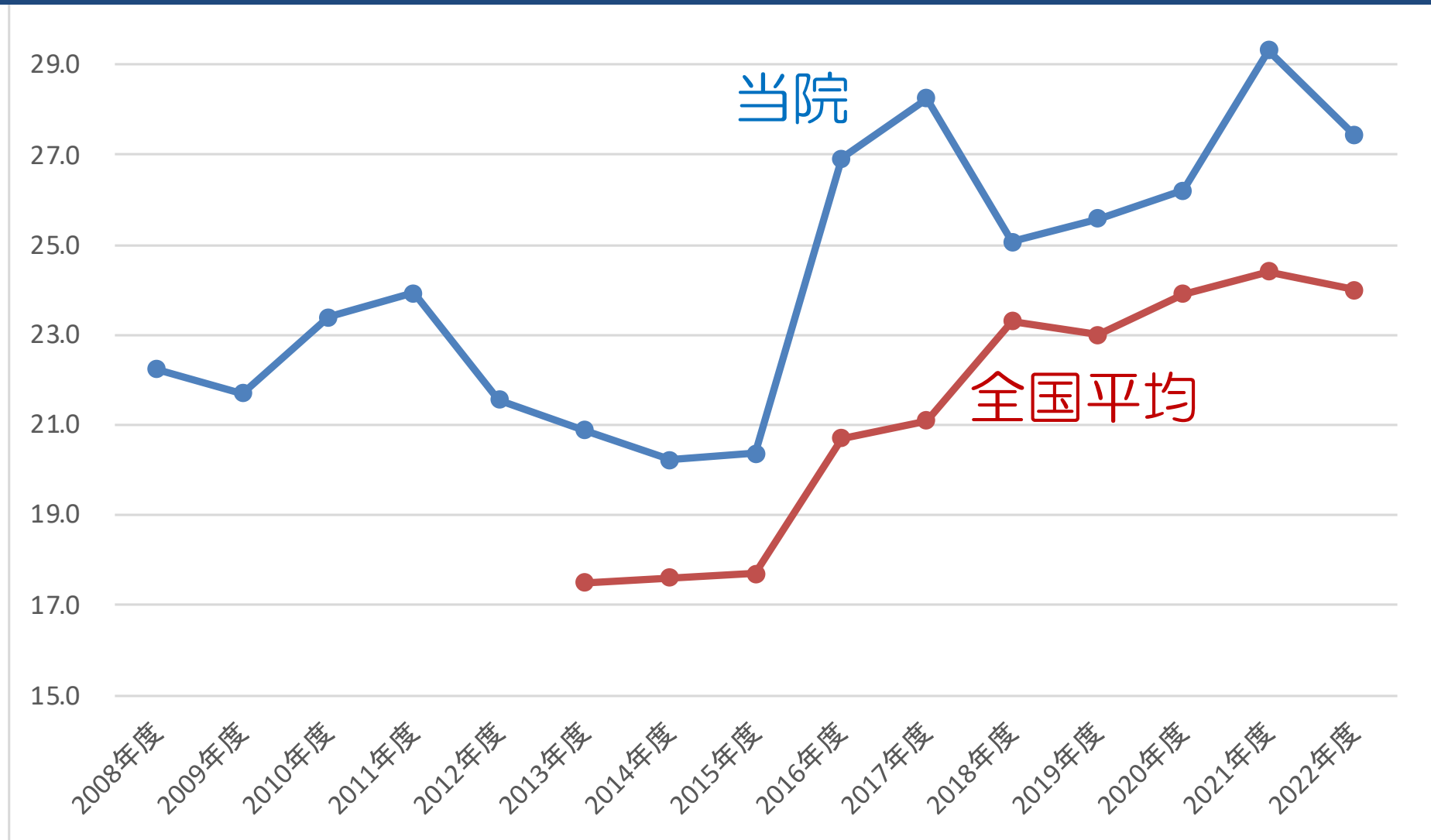


在院日数



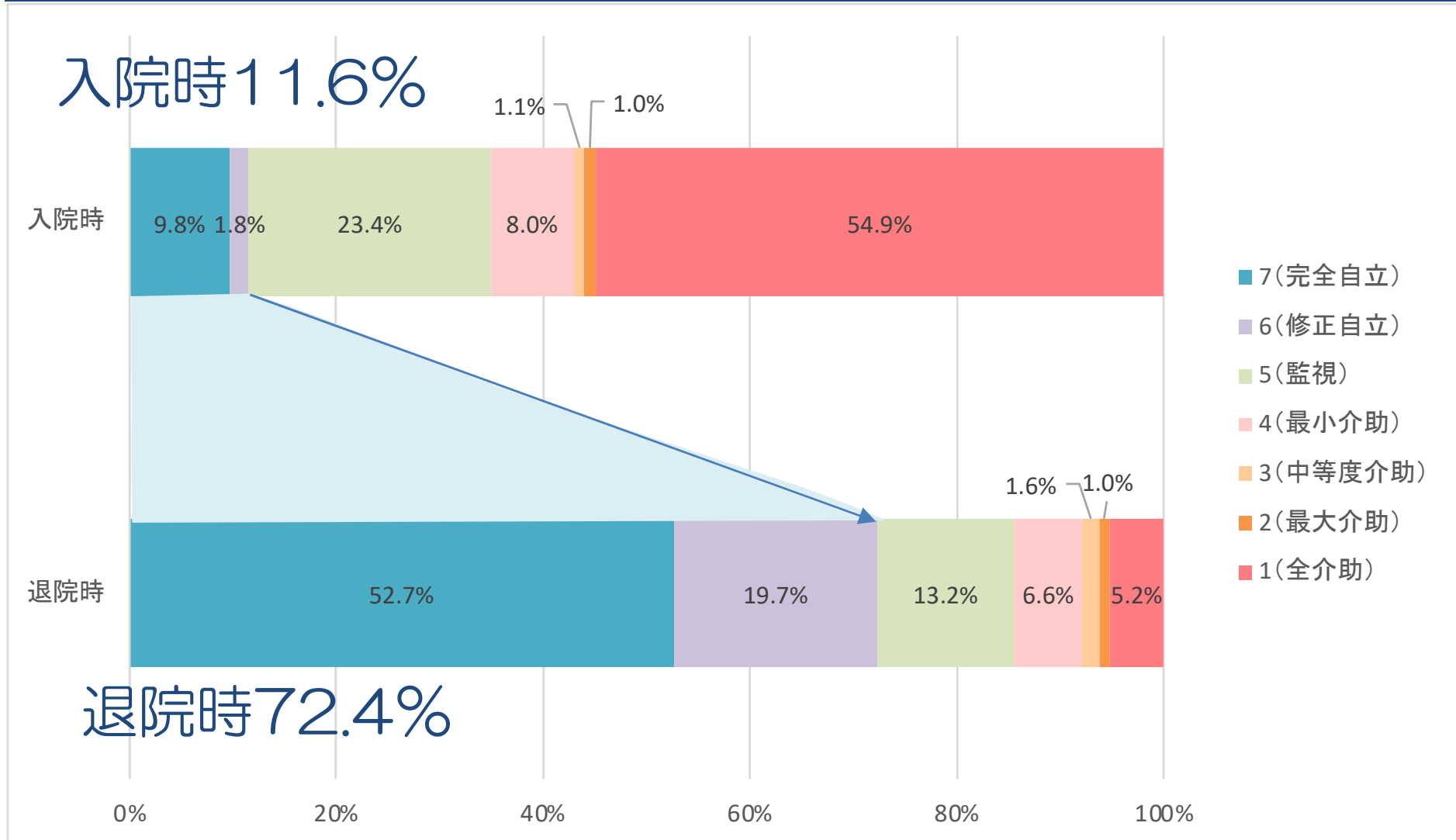
【結果2：日常生活動作（FIM）の改善の比較】

○全国平均よりも高い（良くなって帰っている）



【結果3：歩行の改善】

○歩行自立している方は入院時約12%であったが退院時には72%に増加して帰っている



【市立病院の役割について】

○船橋市民への入院医療提供は
毎年500人、市民累計約8,000人（市民の1.2%）

○在宅復帰率は全国平均と同等で8割

○日常生活動作の改善は全国平均よりも良くなって
退院している

○歩行自立している方は入院時約12%であったが
退院時には72%に増加して帰っている



○市立病院として船橋市民の在宅復帰を支援する
役割を果たしていると考えてよいか。

【在宅復帰を支える人材育成】

○ジェネラリストとプロフェッショナルの両輪を育成

1. 共通研修

チームアプローチの醸成
法人の理念の浸透

2. 専門教育

患者・家族を対象に、当院の理念に基づき
適切なリハビリテーションサービスを提供できる
専門職を育成

* 現場での実践教育を軸として展開
理念に基づいたリハケアの実践
チームアプローチを強化

輝生会 研修全体像

2021年4月
人材育成局
報告者にて一部修正

研修会

補完

在宅研修

在宅フォローアップ
研修

在宅実務者研修

在宅導入研修

共通研修

管理職研修

サブマネ
ジャー研修
新任サブマネ
ジャー研修

シニア研修
(輝生会研究発表会)

4年次研修
(多職種連携研修)

3年次研修
(担当患者を振り返る研修)

2年次研修
(サブリーダー研修)
リハケア部のみ

2年次研修
(プリセプター研修)

新採用者研修

専門研修

シニア研修

4年次研修

3年次研修

2年次研修

新採用者研修

専門職評価に則した
屋根瓦式OJT

理念・倫理に則した
現場教育
態度・知識・技術

実践

各種研修

吸引研修

院内勉強会

外部講師

院内講師

院外講師

院外研修会

院外発表・論文発表

院内・センター内 全体勉強会
(接遇・倫理・医療安全・感染・急変時等)

【新採用者研修の風景】

全職種が
同じ内容を研修



※写真はスタッフ

【認定理学療法士 教育機関】



脳卒中

地域理学療法

理学療法士を教える 理学療法士が多数在籍

【在宅復帰を支える最先端の治療機器】

全国103施設 関東で16施設のみ



歩行のための免荷トレッドミル・ロボット

※写真はスタッフ

【在宅復帰を支える最先端の治療機器】

足の動きのための
磁気刺激



飲み込みのための
磁気刺激



飲み込みのための
電気刺激



手の動きのための
電気刺激



手の反復練習のための
ロボット



※写真はスタッフ

【在宅復帰を支えるチームアプローチ】

ナースステーションではなく
スタッフステーション



同じ時間と同じ空間を共有
リハスタッフも病棟配属



※写真はスタッフ

輝生会回復期リハ病棟における ケア基準

- ①食事は食堂に誘導し、可能な限り経口摂取を推進。
（経口摂取が不可の場合は間歇的経管栄養）
- ②洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施。
- ③排泄は必ずトイレへ誘導し、オムツは極力使用しない。
（膀胱留置カテーテルは使用しない）
- ④入浴は必ず浴槽に入れる。
（特殊浴槽は使用せず、家庭にある一般的な浴槽を使用）
- ⑤日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施する。
- ⑥体形に適合した車いすを一人に1台用意する。
- ⑦転倒・誤嚥等の安全対策を徹底し、可能な限り抑制しない。
- ⑧可能な限り日中臥床しないようにケア。
- ⑨PT・OT・STを土・日・祝祭日を問わず、365日間
毎日3時間実施する。

人としてあたり前のことをあたり前に

再び輝いた人生を送れることを応援できる
スタッフの人材育成の実践に取り組みます

